

# どのように「不十分な健康状態」を 定量化するか？

- 質調整生存年 Quality-adjusted Life Years (QALYクォーリー)

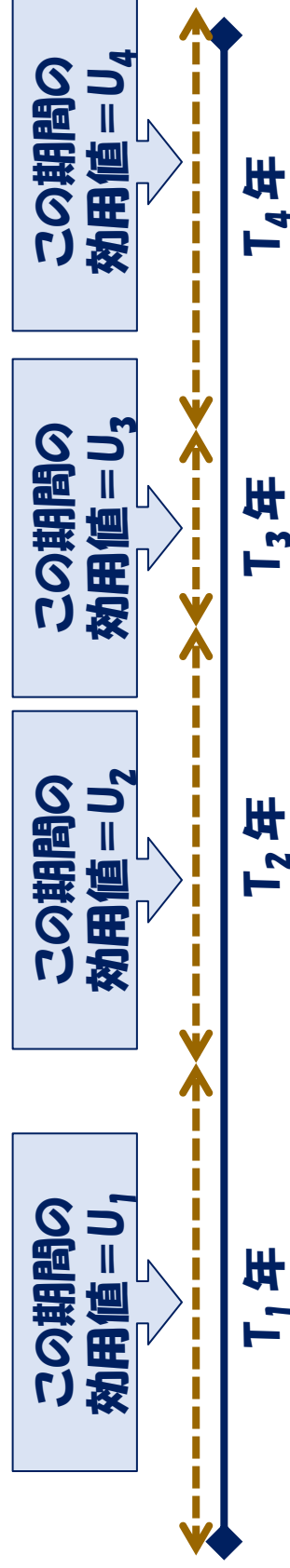
- 効用値は、患者においても時点で異なる
- 患者内で、異なる健康状態の各時点の影響を考慮
- 効用値とその効用値であった期間からQALYを計算.
- **(例) 罹病中の効用値 = 0.6** とすると、この状態の1年間は完全な健康状態です。0.6年間と等価とみなす

**効用値測定尺度の開発，ならびにその使用には  
疫学的手法の活用が必須**

# QALYを用いる利点

- 各患者における健康状態を比較可能に
  - 各患者の疾病の罹患状況
  - 患者内での健康状態の変化
- が反映された値を推定

(例) 下の患者の $QALY = U_1T_1 + U_2T_2 + U_3T_3 + U_4T_4$



実際の期間内の質で調整した生存年 (QALY) を算出できる。  
これにより、実際の生存期間が同じでも、その健康状態で調整された生存年同士を比較することができる。

## まとめ

●健康寿命の延伸を目指し、「要介護状態」を招きうる疾病を減らすには、**疫学的な知見の活用が重要**。

### ●とりわけ

1. 各疾病のリスク因子の定量的検証，効率的な予防介入の実施
2. 既存の治療法での，evidence-practice gapの同定・解消
3. 全ての前提として，健康状態の正確な把握

**の実施には、疫学的方法論が必須であると言える。**

#### 結論：

- 健康寿命の更なる延伸のために社会健康医学（特に疫学）的方法論が必須
- そのためには、静岡県にも研究と人材育成を行う社会健康医学の拠点が必要